

- genes during tomato fruit development. *Sci. Hortic.* 241, 329-338.
- Matsuo, S. *et al.* 2020. Loss of function of the *Pad-1* aminotransferase gene, which is involved in auxin homeostasis, induces parthenocarp in Solanaceae plants. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 117, 12784-12790.
- Mellor, N. *et al.* 2016. Dynamic regulation of auxin oxidase and conjugating enzymes *AtDAO1* and *GH3* modulates auxin homeostasis. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 113, 11022-11027.
- Porco, S. *et al.* 2016. Dioxygenase-encoding *AtDAO1* gene controls IAA oxidation and homeostasis in *Arabidopsis*. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 113, 11016-11021.
- Rotino, G.L. *et al.* 1997. Genetic engineering of parthenocarpic plants. *Nat. Biotechnol.* 15, 1398-1401.
- Stepanova, A.N. *et al.* 2011. The *Arabidopsis* YUCCA1 flavin monooxygenase functions in the indole-3-pyruvic acid branch of auxin biosynthesis. *Plant Cell* 23, 3961-3973.
- Serrani, J.C. *et al.* 2010. Inhibition of auxin transport from the ovary or from the apical shoot induces parthenocarpic fruit-set in tomato mediated by gibberellins. *Plant Physiol.* 153, 851-862.
- Wang, H. *et al.* 2005. The tomato *Aux/IAA* transcription factor *IAA9* is involved in fruit development and leaf morphogenesis. *Plant Cell* 17, 2676-2692.
- Won, C. *et al.* 2011. Conversion of tryptophan to indole-3-acetic acid by TRYPTOPHAN AMINOTRANSFERASES OF *ARABIDOPSIS* and YUCCAs in *Arabidopsis*. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 108, 18518-18523.
- Zhang, J. *et al.* 2016. DAO1 catalyzes temporal and tissue-specific oxidative inactivation of auxin in *Arabidopsis thaliana*. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 113, 11010-11015.
- Zheng, Z. *et al.* 2013. Coordination of auxin and ethylene biosynthesis by the aminotransferase VAS1. *Nat. Chem. Biol.* 9, 244-246.

くさくさ  
田畑の草種

胡草, 恵比須草, 夷草  
(エビスグサ)

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

皆さん方は七福神をご存知だろうか。そう、恵比寿、大黒、毘沙門、弁財、福祿寿、寿老人、布袋の七神のことであり、<sup>かし</sup>儂(恵比寿)もその一人ではあるのだが。

儂はもともとこの国での土着信仰の神として祀られておった。ところが平安時代初期の最澄という偉い坊さんがインドから台所の神として大黒さんを連れてきた。その後ほどなくして京都の鞍馬山で信仰されていた毘沙門どのが加わり、一時は儂を含む三神が信仰されることがあった。それが平安時代末頃になると近江竹生島の弁天様の信仰が盛んになって三神に加わり、しばらくは四神信仰の時期が続いた。

室町時代中期の東山文化のころ、中国の道教から福祿寿さんや寿老人、仏教界から布袋和尚もやってきて、室町時代の終わり頃には儂を含む七神の顔ぶれが揃ったことになる。

江戸時代の初め、天海僧正が徳川家康に、富国繁栄の方策として広く信仰されていた七柱の神々がもたらす徳を説いたといわれている。

つまりは、人間の七福を七神に求めて、インドから来られた大黒天に有福を、毘沙門天に威光を、弁財天に愛嬌を、また、中国からの寿老人に長寿を、福祿寿に人望を、さらに布袋和尚

には大量を願うことで六福を叶えようとした。そうして日本古来の恵比寿である儂に清廉、正直を委ねてきた。

それを象徴する縁起物として描かれたものが七福神の乗る宝船じゃ。その宝船の絵には一緒に回文の歌も書かれておる。

長き夜の 遠の眠りの 皆目覚め 波のり船の 音の良きかな  
くどいようじゃが儂を除く六神は皆インドや中国から来た神々じゃ。

話がそれてしまったようじゃ。

エビスグサはマメ科センナ属の一年草。アメリカ原産の帰化植物。日本へは江戸時代の享保年間に中国から渡来したといわれている。本州以南の畑地、空き地、道端、樹園地などで生育。背丈は50cmから100cm。葉は互生し2~4対の偶数羽状複葉で、夕方になると葉を閉じる就眠活動をする。7月から8月に黄色い花を咲かせるが、いわゆるマメ科の蝶形花ではなくいびつな5弁花である。花後、10月頃に10cmから15cmの細長い豆果をつける。この細長い豆果を恵比寿天の持つ釣り竿に見立てて「恵比寿草」と名付けられたように思うが、牧野富太郎は「夷」の字を充てて「夷夷の異国から渡来したから」、とする方がいいかであろうか。